

愛知県・名古屋市の中学校軟式野球の未来に向けて

名古屋市立名塚中学校 八幡 章雄

1 愛知県および名古屋市の現状

(1) 愛知県の中学校軟式野球

- ・ 県内の中学校は、部活動に全員入部し、教員も全員顧問である学校が多く存在する。
- ・ 小学校には部活動はなく、地域のスポーツ少年団による活動のため、野球のスポーツ少年団のあるなしで、地域による学童野球人口はまちまち。
- ・ 授業後の活動時間は、地区によって下校完了時間が早く、冬季はほとんどできないところがある。
- ・ 全国につながる主たる大会は3大会。中体連主催の全国大会（全中）を目指す県総体とその予選、全軟連少年部主催の2つの全国大会（全日本と春季）を目指す県大会とその予選。
- ・ 中体連の大会は、県内の多くの地区は教員によって運営されており審判も教員が行っている。軟連の大会は軟連各支部で運営されており各支部審判員が審判派遣される。一部の地域は中体連（教員）と軟連が相互に協力して大会運営や審判派遣がされている。
- ・ 一部地域では、中学校野球部が地域クラブチームとして活動しているところがある。豊橋市内中学校は、土曜日は学校部活動として、日曜日はクラブチーム化して活動している。また、刈谷市内6中学校は父母会を設立し、一部はクラブ化して授業後の活動時間を広げるなど、工夫して活動している。
- ・ 全国的に問題化している少年野球人口の減少は、愛知県でも例外ではない。
- ・ 平成29年度の全国中学校野球大会で、刈谷市立朝日中学校が準優勝に輝いた。

(2) 名古屋市の中学校軟式野球

- ・ 市内134校（国公立含む）のうち、99校に野球部がある。
- ・ 部活動はほとんどの学校が希望参加。顧問もほとんどの学校が全員顧問制ではなく希望制といえるが、若い教員が顧問欠員の部活動を依頼されることがある。
- ・ 名古屋は小学校も部活動があることに触れておきたい。
小学校の野球部は4月～7月まで活動する学校がほとんど。6～7月に行われる区教育振興会主催の指導会（かつては区大会）と、中日少年野球大会に小学校チームとして出場。8月に熱田球場で行われる優勝野球大会は、かつては区大会を勝ち抜いた小学校チームが出場できる大会。現在は、希望する小学校のみ参加で7～8月に行われる（2017年は54校が参加）。中日大会かこの大会に負けたらその年度の活動は終了。
- ・ 地域の学童野球チームは乱立していて各区で一様ではないが、とても盛ん。ちなみに、地域の学童野球チームに入っている選手は各小学校野球部にも所属して練習している場合が多く、中日少年野球大会には各小学校野球部の選手として出場する（地域の学童野球チームはこの大会にはエントリーしない）という不思議な慣例がある。
- ・ 授業後の活動は夏季18時、冬季17時までは活動できる中学校が多い。
- ・ 市内の中学軟式クラブチームは、およそ20チーム（2017年7月現在）。
- ・ 野球部が地域クラブ化して活動している学校はほとんどない。
- ・ 父母会が正式に存在している部は、ほとんどない。
- ・ 平成29年度は、北中学校、高針台中学校、植田中学校が愛知県大会ベスト8。近年では、平成23年度に城山中学校が県大会優勝、全国中学校野球大会第3位に輝いている。

2 いま求められている喫緊の課題

- (1) 少年野球人口減少を食い止める
 - ・ 野球を楽しみ、野球に親しむ機会を増やす
 - ・ 野球の魅力を伝える工夫をする
 - ・ 高い野球のレベルを追求できる環境をつくる
- (2) 指導する教員の多忙化解消
 - ・ 顧問の希望制
 - ・ 外部指導者の積極的導入
 - ・ 活動日、活動時間の制限
 - ・ 各種大会の縮小、精選
 - ・ 部活動の縮小、廃止
- (3) 体罰、暴力、いじめの排除
 - ・ 旧態依然とした部活動指導者の意識改善
 - ・ 安心安全な活動環境
 - ・ 生徒の主体的な活動を可能とするシステム
- (4) 生徒の心身への影響を軽減
 - ・ 適度な休養の確保
 - ・ 少年期に燃え尽きさせない持続可能な育成
 - ・ 障害を未然に防ぐ、発育や発達に応じた指導

3 今後の中学校野球

- (1) 部活動はなくなるのか
 - ① 部活動のよさ
 - ・ 活躍の場が、地域の仲間と共に生活する学校内にある
 - ・ 部活動指導者が、学校での顔と部活動での顔の両方を見ることができる
 - ・ 経済的に豊かな家庭でなくても、取り組むことができる
 - ・ 仲間とともに得られる感動（連帯感、達成感、充足感など）
 - ② 部活動のブラックな面
 - ・ 2（2）～（4）に記載済み
- (2) 野球を愛好する中学生の受け皿はどうなるか
 - ① 部活動の今後の推移例
 - ・ 活動日や時間は制限されるが、従来通りの部活動として存続する
 - ・ 顧問制度と入部制度は希望制となって部活動は存続する。活動日や時間が制限される
 - ・ 部活動自体が、外部指導者を導入した総合スポーツクラブやクラブチームに移行する
 - ・ 部活動が廃止され、地域の総合スポーツクラブやクラブチームに委ねられる
 - ② 中学生の活動参加形式例
 - ・ 従来型 … 学校部活動のみ加入
 - ・ 校内一体型 … 中学校ごとに設立する総合スポーツクラブに加入
 - ・ 野球クラブ型 … 中学校ごとに設立する野球クラブに加入
 - ・ 地域複合型 … 校区を設けない地域の野球クラブに加入

③ 野球指導者を熱望する中学校教員の野球とのかかわり例

- ・ 部活動顧問として、これまで通り野球指導をする（希望する教員）
- ・ 部活動顧問とクラブチームでの野球指導を兼ねる
- ・ ライセンスを取得した教員が、野球部顧問とクラブチームを兼ねる
- ・ 部活動に代わるクラブチーム（スポーツクラブ）で野球指導をする
- ・ ライセンスを取得した教員が、部活動に代わるクラブチームで野球指導をする

④ 活動日や活動時間例

- ・ 平日 2 時間、休日は 1 日のみで 3 時間程度の活動
- ・ 平日のみの活動
- ・ 休日のみの活動
- ・ 部活動とクラブチームを掛け持つなどして、生徒が自主的に活動の幅を広げる

※ 例えば名塚中学校野球部を名塚クラブにするなどして、部員の活動時間を半ば強制的に維持拡大することは、今後の状況では受け入れられにくいものになる可能性がある

⑤ 大会への出場（中体連、全軟連ともに大会がある前提）

- ・ 中学校部活動として、中体連大会および全軟連大会に出場。（従来通り）
- ・ 中学校部活動として中体連大会に参加、クラブチームとして全軟連大会に出場。
- ・ 縮小や制限された大会に出場する。あるいは大会出場をしない。

(3) かつてより制限された環境で、どのように野球好きな中学生を育てるか

① 「育成」を重視した野球指導

- ・ 量より質を重視した技術指導
- ・ 中学生に・合った体作り
- ・ メンタルトレーニングの導入
- ・ 座学のススメ
- ・ コーチング 指導者ではなくファシリテーター(促進者)としてのチーム作り

② 相互に協同・共有できる指導者同士・チーム同士のネットワーク

- ・ 個人のネットワークによる合同練習会、研修会、講習会、懇親会
- ・ 地区内での合同練習会、研修会、講習会、懇親会
- ・ 県内での合同練習会、研修会、講習会、懇親会
- ・ 合同チームによる各種大会出場

(4) 中学校野球を取り巻く組織は、縦横のつながりをより強めることはできるのか

① 全国（愛知県）中学校体育連盟 ～全国（県内）の中体連のつながり～

② 全国（愛知県）軟式野球連盟 ～全国（県内）の軟式クラブチームとのつながり～

③ 愛知県中学生軟式野球連盟 ～県内各地区中学校野球部指導者同士のつながり～

④ 名古屋市少年野球連盟 ～市内中学校野球指導者同士のつながり～

⑤ その他

- ・ NPB ～プロ野球とのつながり～
- ・ 全国（愛知県）高等学校野球連盟 ～高校野球とのつながり～
- ・ ボーイズ・リトルシニアの連盟 ～中学硬式野球とのつながり～
- ・ 全国（愛知県）KB連盟 ～Kボールとのつながり～
- ・ 各市町の学童野球とのつながり

参考としている文献および資料 (30. 3. 20 まで)

- ・ 学校における働き方改革に関する緊急対策 (29. 12. 26 文部科学省)
- ・ 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(案) (30. 2. 23 スポーツ庁)
- ・ 「部活動があぶない」(島沢優子 講談社現代新書)
- ・ 「そろそろ、部活動これからは話ませんか 未来のための部活講義」(中澤篤史 大月書店)
- ・ 「部活動の不思議を語り合おう」(長沼豊 ひつじ書房)
- ・ チームスポーツに学ぶボトムアップ理論(畑希美夫 カンゼン)
- ・ 中学野球太郎 vol. 18 中学野球部は本当に「ブラック部活」なのか(廣済堂出版)
- ・ 大利実のメルマガでしか読めない「中学野球」
- ・ 岐阜県垂井町立不破中学校部活動規約・部活動保護者会規則・外部指導者委嘱内規
- ・ セミナー「成長期の運動スポーツ指導論 ～成長特性編～」
(小俣よしのぶさん 30. 2. 17 東海医療科学専門学校にて)